



## Scanner Utility (Ver6.3) 解説書

ユニテック・ジャパン株式会社

Ver1.0

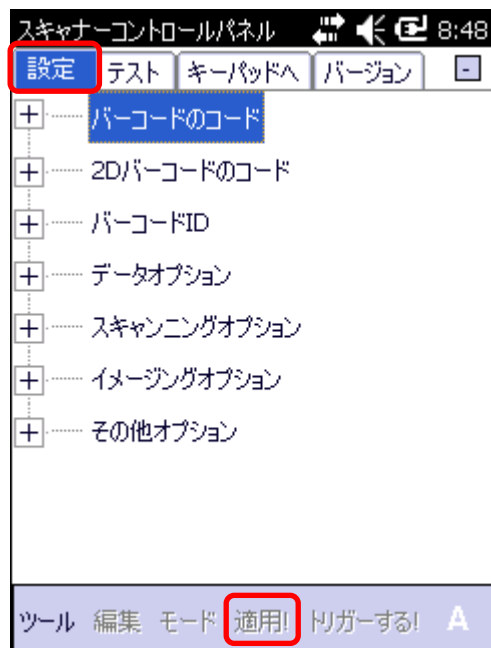
## 目次

1. 「設定」タブ .....	2
2. 「テスト」タブ .....	2
3. 「キーパッドへ」タブ .....	3
4. 「バージョン」タブ .....	3
5. 設定項目 .....	4
5.1. バーコードのコード .....	4
5.1.1 Codabar 詳細設定 .....	4
5.1.2 Code128 詳細設定 .....	5
5.1.3 Code39 詳細設定 .....	5
5.1.5 Interleaved 2 of 5 詳細設定 .....	6
5.1.6 JAN/EAN/UPC 詳細設定 .....	7
5.1.7 MSI 詳細設定 .....	8
5.1.8 Pharma 詳細設定 .....	8
5.1.9 RSS (Databar) 詳細設定 .....	8
5.2. 2D バーコードのコード .....	9
5.2.1 Aztec 詳細設定 .....	9
5.2.2 Composite 詳細設定 .....	10
5.2.3 Data Matrix 詳細設定 .....	10
5.2.4 MaxiCode 詳細設定 .....	11
5.2.5 PDF-417 詳細設定 .....	11
5.2.6 Composite 詳細設定 .....	11
5.2.7 QR Code 詳細設定 .....	12
5.3. バーコード ID .....	13
5.4. データオプション .....	14
5.5. スキャニングオプション .....	15
5.6. イメージングオプション・その他オプション .....	16

# スキャナ Utility(Ver6.3)解説書

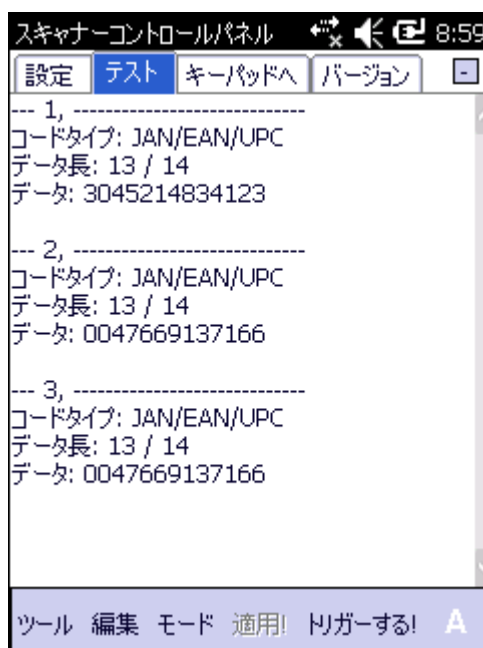
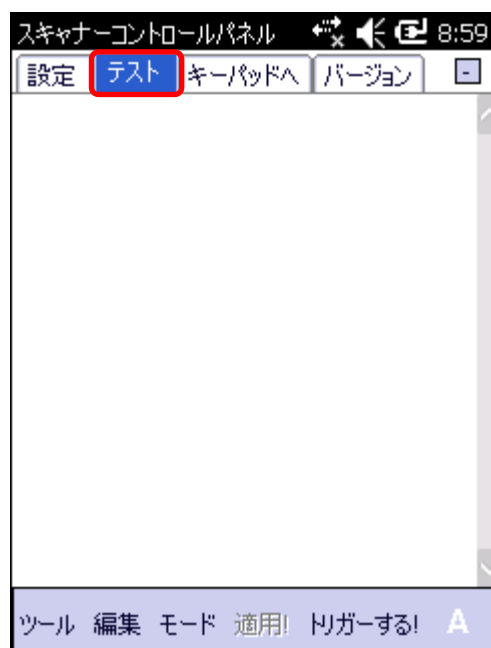
## 1. 「設定」タブ

設定タブより各種設定が可能です。設定変更後は画面下の『適用！』が表示されますのでタップして設定を反映します。



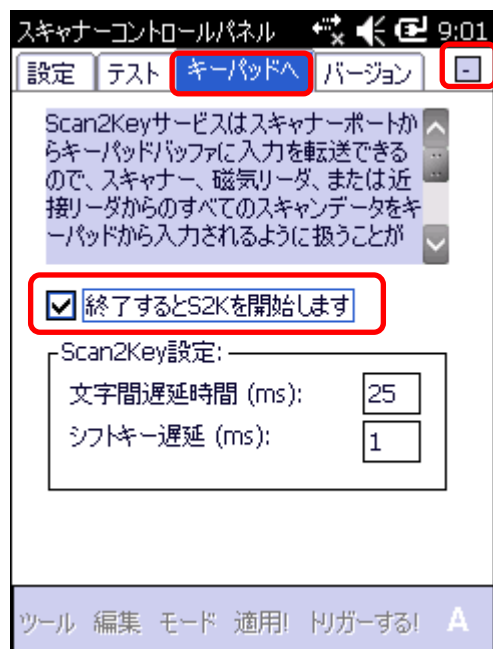
## 2. 「テスト」タブ

テストタブよりスキャナの読取りテストが可能です。



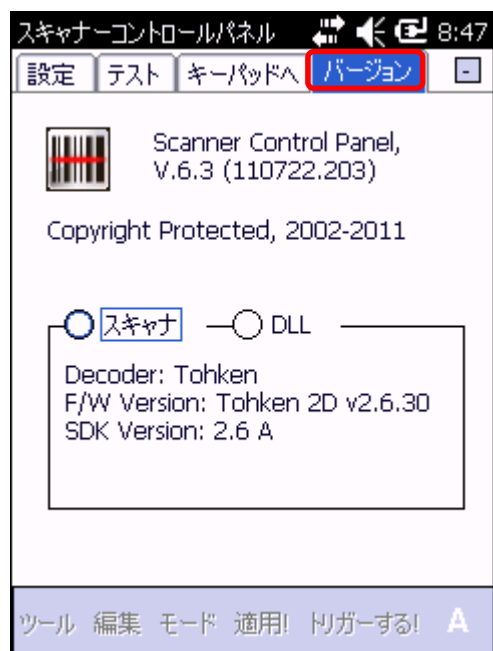
### 3. 「キーパッドへ」タブ

『終了すると S2K を開始します』にチェックを入れ、右上のボタンより終了することで、Scan2Key が起動します。Scan 2 Key はスキャナから読み取ったデータをキーボード入力へ転送する常駐型アプリケーションです。Scan 2 Key を開始するとエディタ（Microsoft OneNote、EXCEL 等）へのデータ出力が可能となります。Scan 2 Key 起動中は画面左下に下図のアイコンが表示されます。



### 4. 「バージョン」タブ

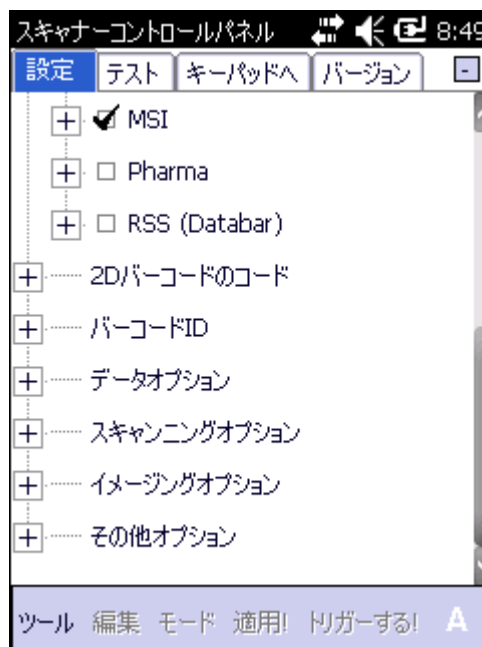
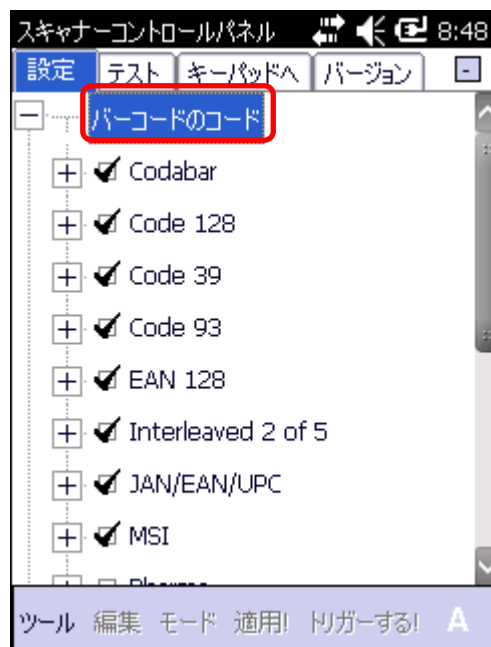
バージョンタブよりスキャナ Utility や DLL 等のバージョンが確認できます。



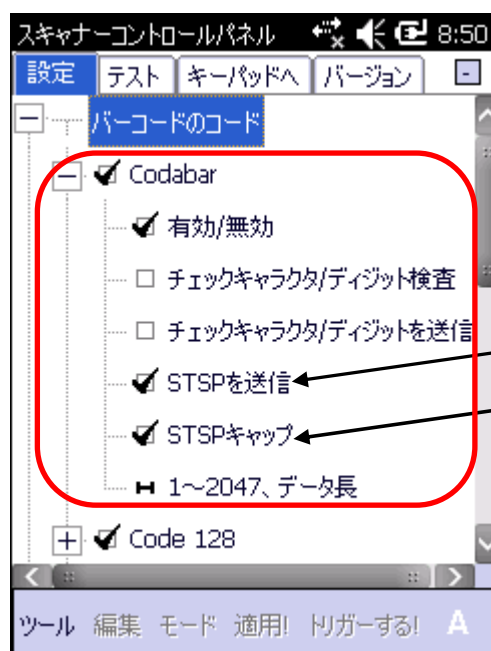
## 5. 設定項目

### 5.1. バーコードのコード

各種シンボルにチェックを入れ、画面下の『適用!』をタップすることで、読み取るシンボルを有効に設定できます。



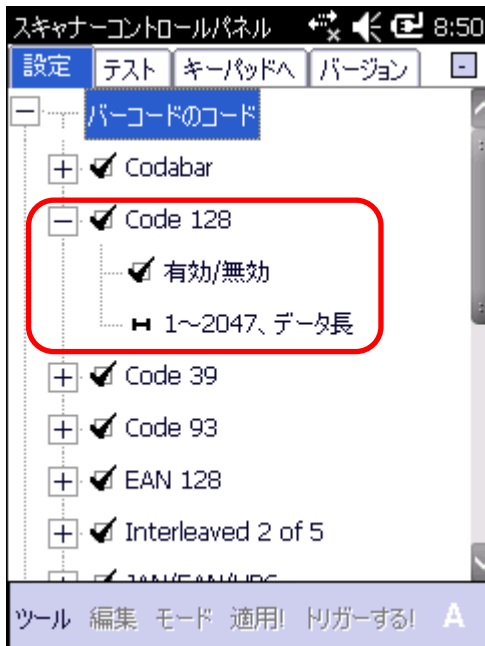
#### 5.1.1 Codabar 詳細設定



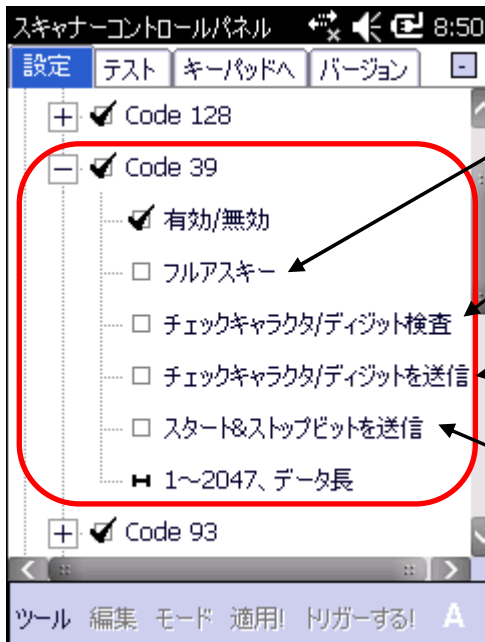
スタートビット、ストップビット送信設定

スタートビット、ストップビットの大文字小文字設定

### 5.1.2 Code128 詳細設定

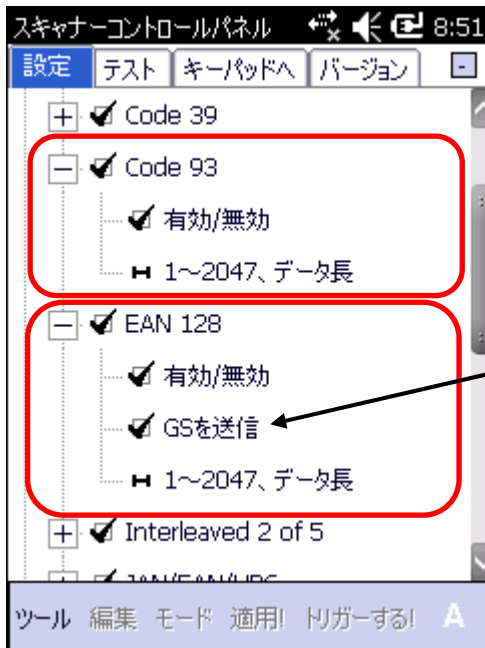


### 5.1.3 Code39 詳細設定



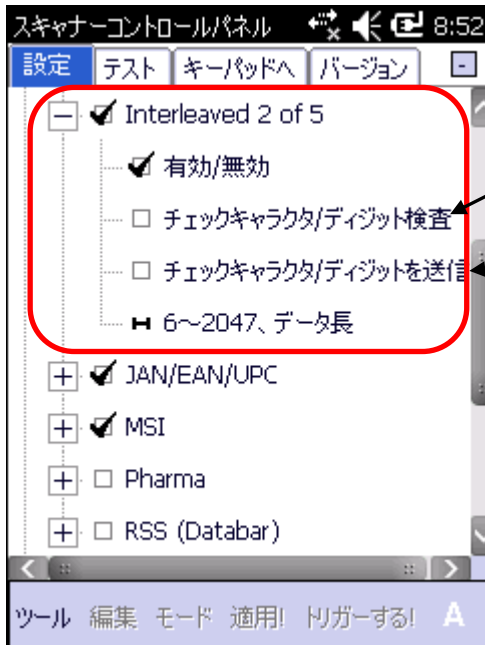
- フルアスキー出力（2つのキャラクタの組み合わせでフルアスキーを表示）が有効
- チェックキャラクタ/ディジット有無を検査。無しの場合、データは出力しない
- チェックキャラクタ/ディジット有のバーコード読取時に、チェックキャラクタ/ディジットを付加して出力
- スタート&ストップビット(\*マーク)を出力

### 5.1.4 Code93,EAN128 詳細設定



GS キャラクタ(グループセパレータ)を送信

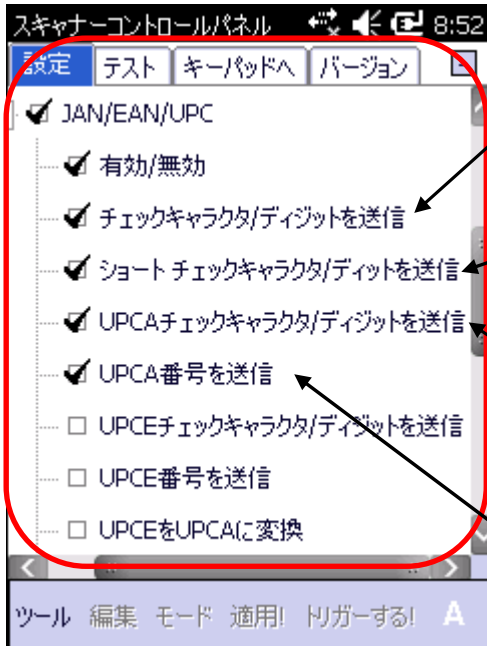
### 5.1.5 Interleaved 2 of 5 詳細設定



チェックキャラクタ/ディジット有無を検査。無しの場合、データは出力しない

チェックキャラクタ/ディジット有のバーコード読取時に、チェックキャラクタ/ディジットを付加して出力

### 5.1.6 JAN/EAN/UPC 詳細設定

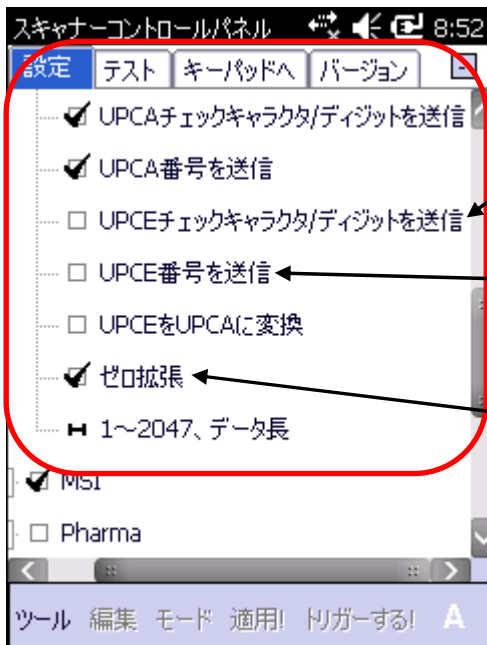


チェックキャラクタ/ディジット有のバーコード読取時に、チェックキャラクタ/ディジットを付加して出力

短縮バージョン（8桁）チェックキャラクタ/ディジット有のバーコード読取時に、チェックキャラクタ/ディジットを付加して出力

UPC-A（12桁）チェックキャラクタ/ディジット有のバーコード読取時に、チェックキャラクタ/ディジットを付加して出力

ナンバーシステムコード（先頭1桁目）を出力



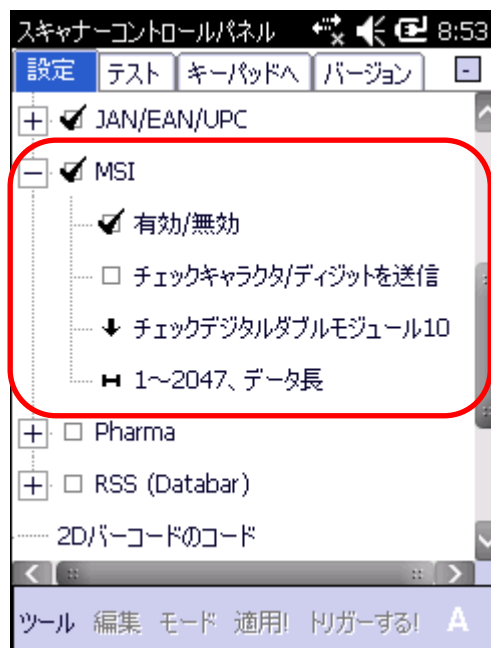
UPC-E（8桁）チェックキャラクタ/ディジット有のバーコード読取時に、チェックキャラクタ/ディジットを付加して出力

ナンバーシステムコード（先頭1桁目）を出力

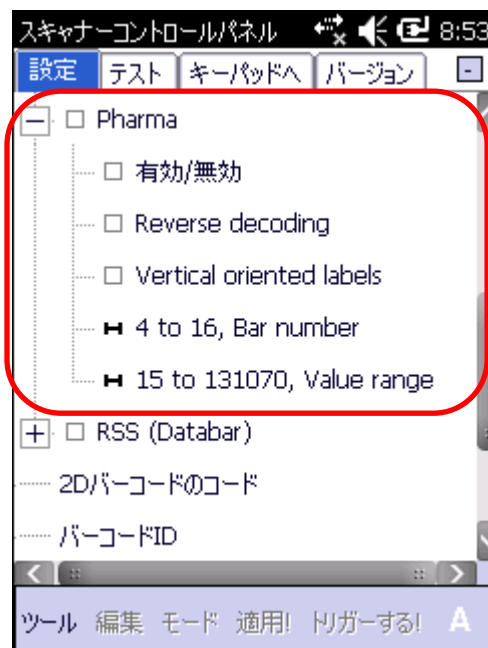
チェック有りで先頭に0を付加して出力



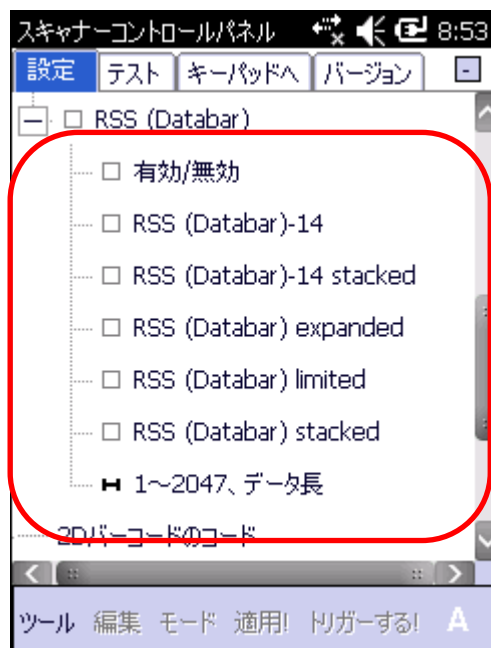
### 5.1.7 MSI 詳細設定



### 5.1.9 RSS (Databar) 詳細設定

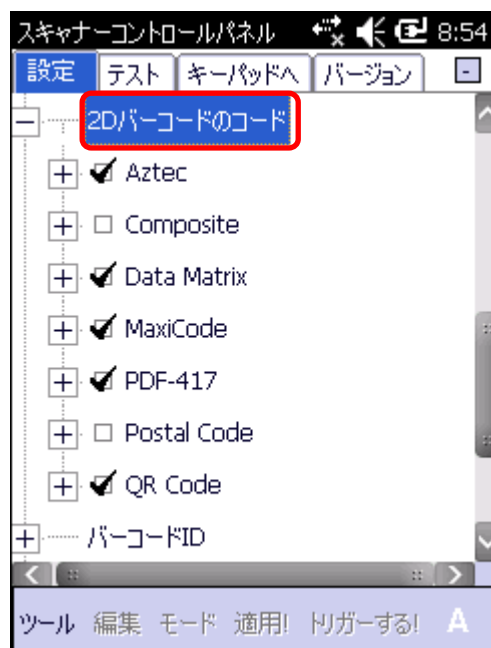


### 5.1.8 Pharma 詳細設定

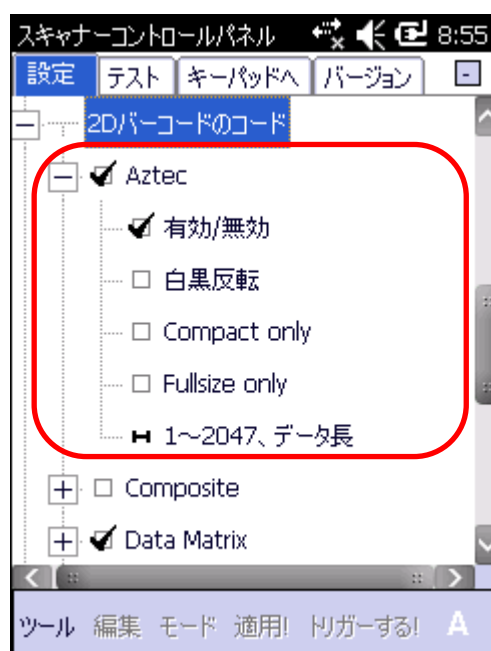


## 5.2. 2D バーコードのコード

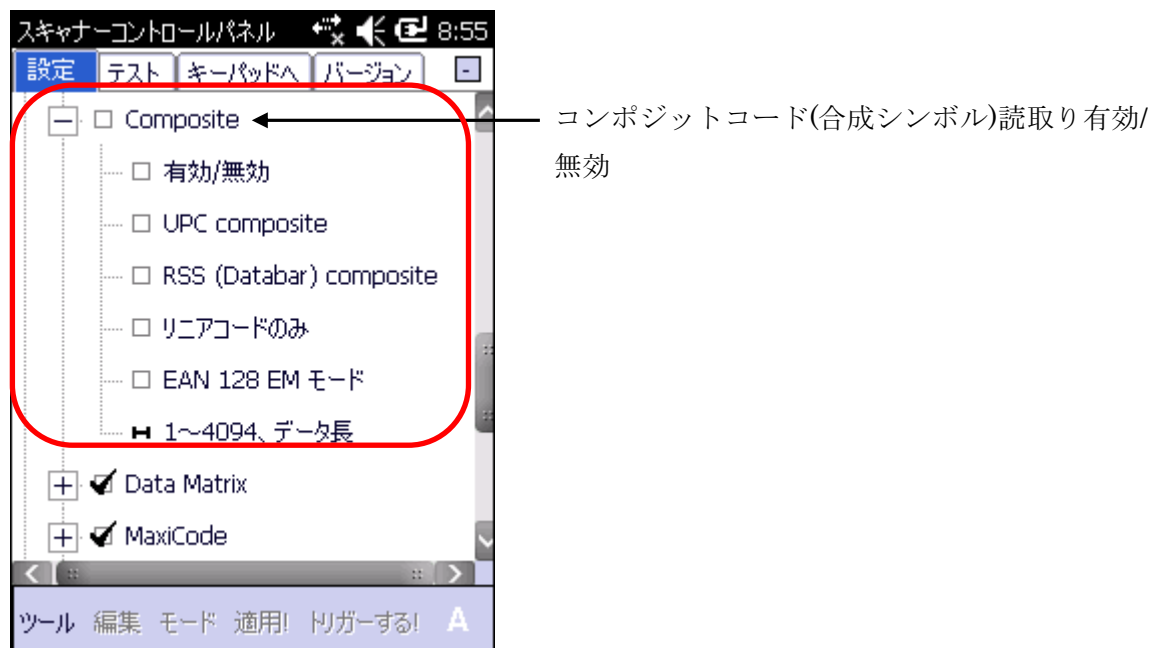
各種シンボルにチェックを入れ、画面下の『適用！』をタップすることで、読み取るシンボルを有効に設定できます。



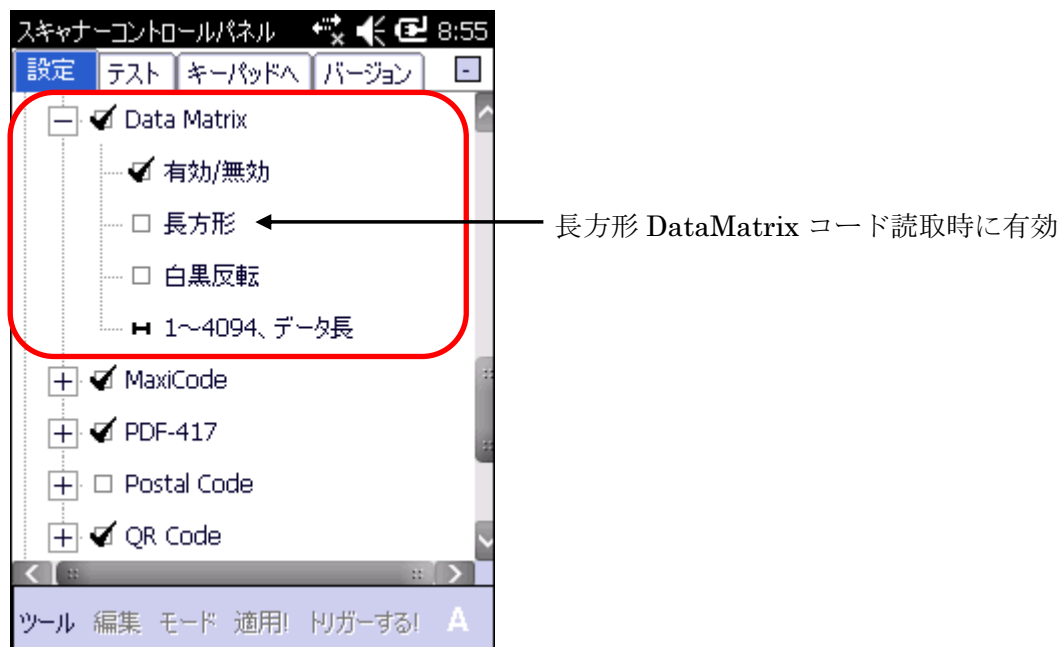
### 5.2.1 Aztec 詳細設定



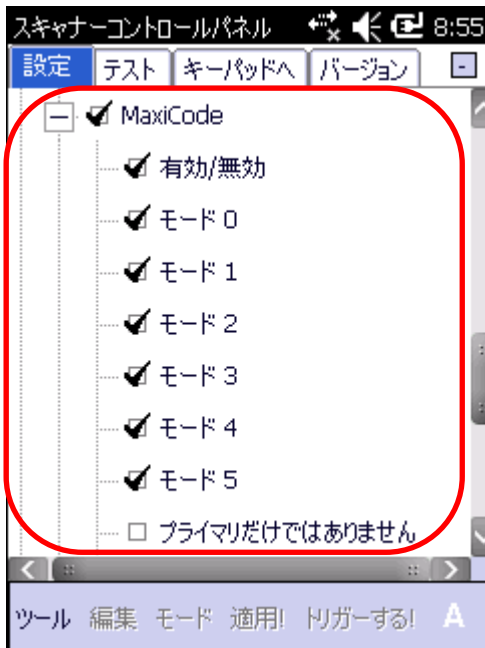
### 5.2.2 Composite 詳細設定



### 5.2.3 Data Matrix 詳細設定



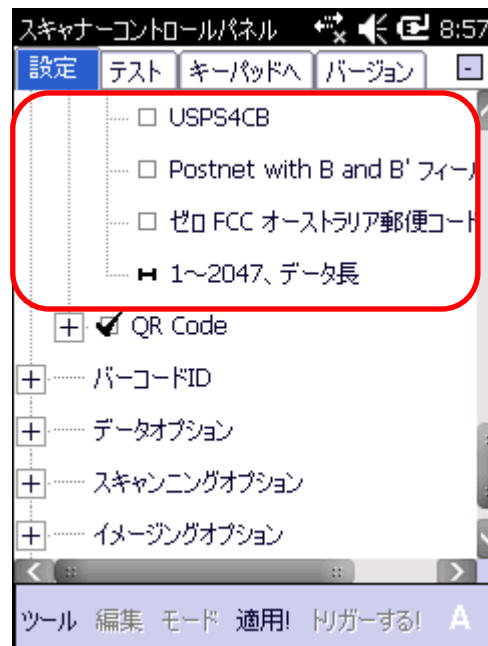
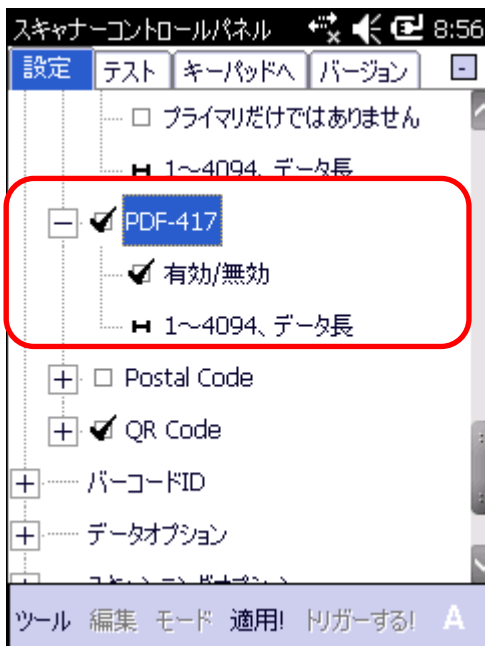
### 5.2.4 MaxiCode 詳細設定



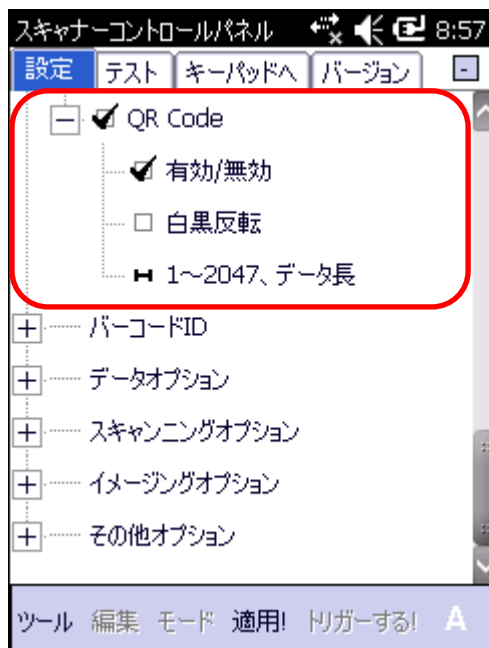
### 5.2.6 Composite 詳細設定



### 5.2.5 PDF-417 詳細設定

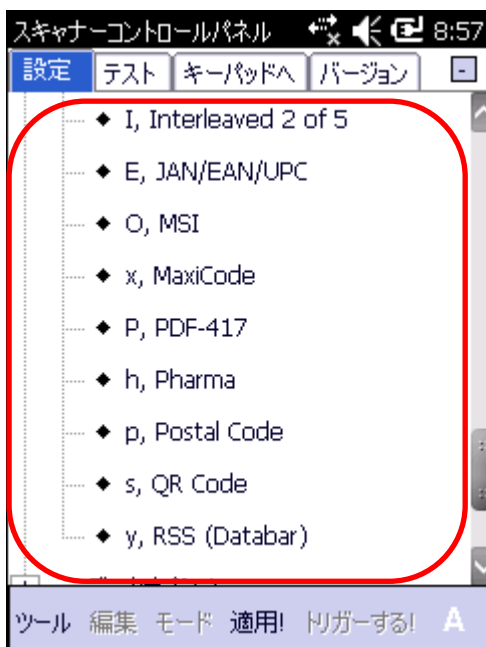
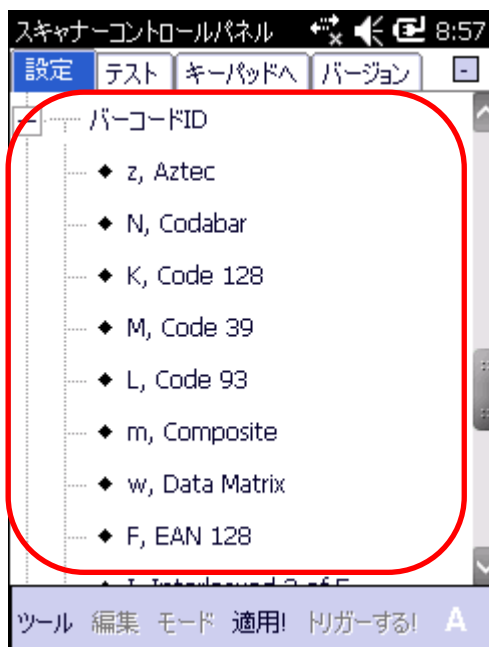


## 5.2.7 QR Code 詳細設定



### 5.3. バーコード ID

『データオプション』(5-4 で説明) で『コード ID キャラクタを送信』を設定するとコードタイプによって読み取ったデータの先頭に以下の ID が付与されます。ID は変更が可能です。



## 5.4. データオプション

読み取ったデータの加工設定や、読み取ったバーコードの画像保存が行えます。



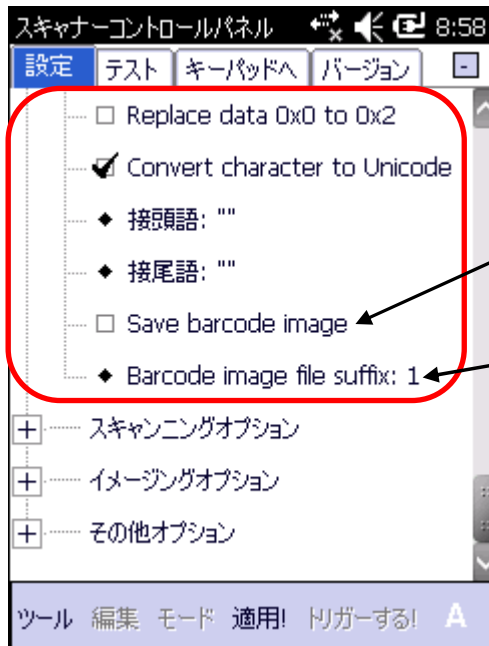
コードタイプにより先頭にコード ID を付与  
**※5-3.バーコード ID 参照**

0x0(NUL 文字)を 0x02(SOH ヘッダ開始)に置換

読み取ったデータの先頭又は最後に文字を付与する場合に設定。文字は ASCII16 進で表記  
**文字設定例**…A→<41>,B→<42>,C→<43>…

**特殊文字**…linefeed→<n>,carriage return→<r>,backspace→<b>,tab→<t>,  
 <→<<>,>→<>>,”→<”>

SIP (ソフトウェアキーボード) 起動

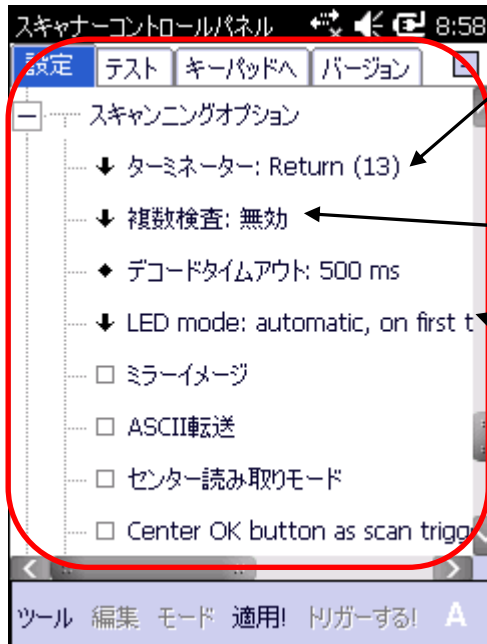


読み取ったバーコードの画像を jpg ファイルで保存

バーコード画像ファイル名通番を設定  
**(001~900)デフォルト 100**

## 5.5. スキャニングオプション

スキャニング時、及びスキャン後の動作設定オプションです。



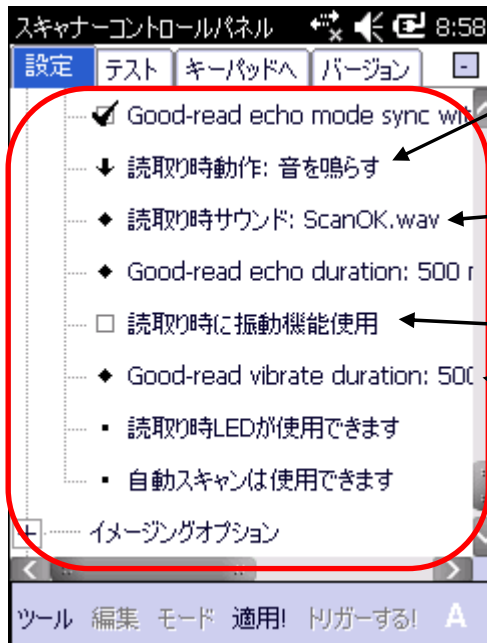
読み取ったデータ終端に付与

Enter(13-10),Return(13),改行(10),なし, Enter  
Enter(13-10-13-10),Tab

複数検査…デフォルト無効 (最大7回)

LED (白) 設定

Automatic(off first time),  
Automatic(on first time),  
always off,always on



読み取り時動作設定

なし、ピープ、音を鳴らす

読み取り時動作で『音を鳴らす』選択時有効

バイブレータ設定

バイブレータ継続時間

(250~3000 ミリ秒) デフォルト 500



## 5.6. イメージングオプション・その他オプション

